賞賜せられた。

ハツトリチユウザエモン　服部忠左衞門　初め柴田勝家の臣であつたが、後山崎閑齋に仕へて、八王子攻城に從軍し、首一つを取り、太刀疵三ヶ所を負ひ、大聖寺陣にも首一つを得て加增せられた。

ハツトリトサノカミ　服部土佐守　初め豐臣秀吉に仕へて一萬三千石を受け、關ヶ原戰後前田利長に仕へ、千五百石を受け、能登に住した。子與市は浪人して天正七年歿し、その子彦左衞門は新知を得て岡野氏を冒した。

ハツトリヤゴロウ　服部彌五郎　寶生流十五代の大夫彌五郎友于が晩年金澤に移住した後、その女子友の壻となつた人。父は直江彌三郎。初名權作。服部氏は寶生家の別姓である。明治元年十月八日歿、行年廿七。全性寺に葬られた。

ハツトリヨエモン　服部與右衞門　前田綱紀に仕へて二百石を領し、寶永三年に歿。子孫世々藩に仕へる。

ハツトリヨシハル　服部可治　通稱左源太。元和元年父左源太の後を受けて五百石を領し、寛文四年定番頭に進み、延寶五年致仕して五十人扶持を受け、惠鉄と號した。天和二年十一月歿。

ハツピヤクビクニ　八百比丘尼　→シロビクニ　白比丘尼。

バテレンヤシキ　伴天連屋敷　金澤甚右衞門坂の下、もと神護寺の附近といふ。舊傳に、切支丹の徒内藤德庵・宇喜多休閑・品川右兵衞・柴山權兵衞等の諸士の第宅が皆こゝに在り、當時伴天連を招いてこの附近に居らしめたといふが、明らかでない。

ハトガイハノタキ　鳩ヶ巖の瀑　龜尾記に、石川郡別所の吉兵衞といふ者の家のうしろは犀川に臨み、向かうより鳩ヶ巖の瀑布落ち、その絶景いはん方ないと記して居る。しからばこの鳩ヶ巖の瀑は、犀川の右岸で、同郡犀川庄末村に屬するものである。

ハトダニオンセン　鳩谷溫泉　→チユウグウオンセン　中宮溫泉。

ハトリジンジヤ　服部神社　江沼郡山代にある。式内等舊社記には『服部神社。式内一社。山代村地内服部鎭座。祭神波登理媛命。今社殿廢絶。』とあるが、後復興して居る。

パトロンジケン　ぱとろん事件　明治二年大聖寺藩に起つた貨幣贋造事件をいふ。同藩では元年頃から鉄炮土藏で五十餘人の者が二歩金を作り、之を京攝及び越後地方に輸出し、大聖寺の小梅と稱せられて好評があつた。然るに翌年夏その事發覺したので、佐分利環・江守平太夫・市橋波江に謹慎を命じ、又佐分孫三・大幸五郎八・柳澤權之進、及び町人柿屋吉兵衞・京屋安兵衞・絹屋治助を京都の藩邸に謹慎せしめた。しかし元來この贋造は、藩が行うたものであるから、石川嶠は京都に於いて揉消運動を試み、且つ市橋波江に諭して割腹せしめ、累を藩侯に及ぼさずして終つた。これに就き宗家金澤の前田氏も大に憂慮し、姻戚鷹司家を通じて畫策したことがあるやうであつた。パトロンとは彈藥のことであるが、政府が北越戰爭に要するパトロンの輸送を大聖寺藩に命じた際、藩はその資金に窮した爲に貨幣贋造を案出したもので、この二歩金をパトロン何發と稱してゐた爲に、パトロン事件の名あるに至つたのである。

ハナイチブキン　花一分金　→キンカ　金貨。

ハナイチブギン　花一分銀　→ギンカ　銀貨。

ハナカケシミヅ　鼻缺清水　石川郡上野新にある。加賀古跡考に、此の清水は龜坂の下にあつて、寒冷甚だしく、之を呑む時は鼻も缺けるやうに感ずるによつてその名を得たとある。

ハナカケドウ　鼻缺堂　鳳至郡宇出津と宇出津山分領との入合に鼻缺辻堂といふがあり、一方は珠洲郡時長で、このあたりを兩郡の界とする。但しこの境界に就いて書いた阿部判官の文書といふものゝ世に存するのは僞作である。

ハナキリ　鼻切　→ミミキリ　耳切。

ハナクヨウ　花供養　金澤の俳人闌更が、京の芭蕉堂を建てゝから、三月十二日の花供養に、そこに手向けられた社中の句を集めたもので、天明二年を初とし、寛政十一年以後は蒼虬之を繼ぎ、天保十二年に至るまで、概ね年々刊行せられてゐる。

ハナサカ　花坂　能美郡輕海郷に屬する部落。

ハナサカイシ　花坂石　九谷陶器の原料とするもの。文化八年初めて能美郡花坂の山頂より採掘し、石英粗面岩の幾分分解作用を受けたるも、尙岩脈をなして存するものである。後別に新花坂石を採掘したが、耐火度低く粘力少いから今は用ひられぬ。

ハナシズイヒツ　咄隨筆　三册。森田盛昌著。談話隨筆と題したものもある。元祿・寶永・正德・享保頃の奇談を集め、その話者の名をも顯してある。その上卷は享保十一年、中・下卷は十二年の編。また續咄隨筆三册は、嘉永三年森田良郷の著で、咄隨筆に倣ひ、もと北雪亭止醉子の集めた册子から拔萃したものといふ。

ハナゾノ　花園　鹿島郡大呑郷に屬する部落。

ハナゾロヘ　花揃　藩政の時、七月七日東西本願寺別院で、數百千の生花・立花を陳列し、之を佛前に供する儀があつて、それを花揃と名づけた。古い時代の立花供養の遺風であらう。近時八月一日に改めてゐる。

ハナタテゴエ　花立越　能美郡須納谷の東に在る峠で、牛首川沿岸の諸村を連絡する。高さ一〇一四米。

ハナノアニ　花の兄　一册。金澤の俳人眉山編。文化四年京勝田善助板。編者の風友及び門下の春帖である。

ハナノガシユウ　花の賀集　一册。金澤の俳人江波の春帖で、嘉永二年金澤松浦八兵衞等板。卷初に花の賀の俳諧一順を載せ、次に發句・附合を集錄するが、その多くは加越能三州の人の作である。八十一の翁梅室の序がある。又同著、金澤集雅堂印行、嘉永五年出板のものがあつて、卷頭に三年・四年の俳諧を載せてあるから、前出二年のものに繼くわけである。壬子春白鷗齋鹿裘が序文を書いてゐる。

ハナノフルコト　花の故事　一册。外題に誹諧と角書がある。俳人闌更の著。京野田治兵衞板。著者が觸目した芭蕉の消息、芭蕉の附合の註解、秋之坊が芭蕉の句に感じた話、金澤の古人の句、その他を錄してある。序は